

仲間との関わり合いを通して自らを 育てる学習指導の工夫

～「言語活動」・「発表、評価活動」とICTの効果的な活用
に関する研究～

神奈川県高座郡寒川町立旭が丘中学校

〒253-0102
神奈川県高座郡寒川町小動933

<http://academic4.plala.or.jp/okachu2/>

1. はじめに

本校では、多くの生徒が落ち着いた学校生活を送り、授業や行事など学校生活全般にわたり真面目に前向きに取り組んでいる。しかし、一方で自他の関係づくりの苦手な生徒がおり、様々な集団の中でコミュニケーション能力を育成する必要があると思われる。特に、学習面では、授業に意欲を持って取り組む生徒が多いが、基礎的・基本的な知識・技能を活用して、応用し課題解決する能力は不足している。この現状を踏まえて、教科や教科外活動において、仲間との関わり合いを意識した活動を行うことによって、自己有用感・自己肯定感を実感し、主体的に学ぶ意欲を持ち行動できる生徒を育てることを目指そうとした。また、生徒が自らの思考力・判断力・表現力を高め、互いに言語活動を通して課題設定・課題解決できる力を身につけさせたいと考え、この研究主題を設定した。

2. 研究の仮説

仲間と関わり合いながら教科及び教科外での学習活動を行う中で、言語活動を多く取り入れ、学んだ内容を発表しそれを評価する活動を通して、自己有用感・自己肯定感を育むことができる。その結果、主体的に学習活動に取り組み、思考力・判断力・表現力をより一層高められる。さらに、自ら課題設定し学習を進展させ、課題解決する力を高めることができると考える。そこで、具体的にどの場面でどのような「言語活動」・「発表、評価活動」を展開するかが重要となる。生徒と教員それぞれのICTの活用も含め、より効果的な手法を探り、授業改善し実践していくことにより、生徒自身の学びが深化し、自らを育てる力になると考えられる。

3. 研究の内容と方法

①研究授業

研究授業・研究協議（10月、11月 計2回）

3部会（言語活動A、言語活動B、ICTの活用）それぞれの部会から1名の教員が、研究授業を行い、同じ部会の教員が参観し研究協議を行う。

②公開授業

各教員による公開授業（指導案提出）

授業者と同じ研究チームの教員が参観できるよう調整する。

VTRを撮り、後日VTRによる授業研究を行えるようにする。

③ミニ講座（毎月の職員会議のはじめの時間を活用）

学級経営、教育相談、生徒会活動、ICTなど学校生活全般においての実践例などをミニ講座として取り上げ、教員同士で共有できるようにする。

④講演会（8月、10月、11月）

「言語活動を通して思考力・判断力・表現力を育む具体的授業展開例」

8月 文教大学国際学部准教授 赤坂雅裕先生の講演

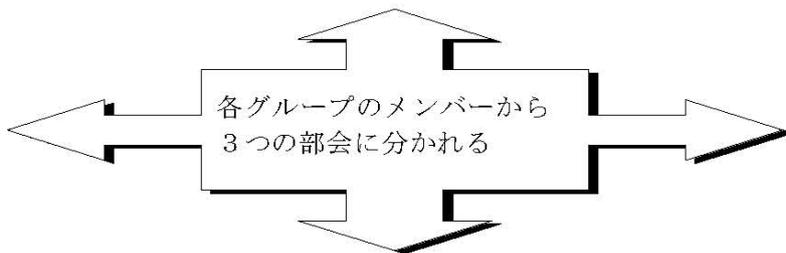
10月 県立教育センター指導主事 松山雅彦先生の講演とワークショップ

11月 横浜国立大学名誉教授 佐野正之先生の講演

4. 研究グループの構成

教科グループ 活かした 教科の特性を	国語 美術 音楽	保健体育 英語	技術・家庭 数学	社会 理科
	イメージを形で表現する教科グループ	仲間づくりを通して、体・表情・言葉を使って表現する教科グループ	知識・技術を基盤とした活用型の教科グループ	データ収集、資料活用から思考判断力を育てる教科グループ

子どもへフィードバック



各自の授業に活かす

3部会での研究

	言語活動A	言語活動B	ICTの活用
I 国語 美術 音楽	Ht Mk	Az Sn	Tn Oi
II 保体 英語	Sz Yk Tn	Hy Fr	Th Ts Om
III 数学 技家	Nz Sk Tk	Uc	Kb Ik Hn Kr
IV 社会 理科	Hn Ny Mr	Sm	Kz Ht Sr

※イニシャルは教員名

【各グループでの研究のポイント】

《言語活動A》

社会科：子どもに考えさせる授業、発言を引き出す授業を行う。また授業の感想を書かせる。事象例の因果的な推論ができる事を目指し、説明過程において学習力が高まることを期待する。

数学科：相似の証明か文章題のところまでできるだけ自分の言葉で説明できるような工夫を盛り込んだ授業を展開する。1次関数の文章題で言語活動を取り入れて行う。

英語科：興味を持ったことをきっかけにして、自分の言葉で説明できる力を育てる。

少人数クラス同士の交流で、自分のことや身の回りのことを説明しそれに対して質問や反応ができる力を育てる。

家庭科：保育の授業で言語活動を行う。

《言語活動B(発表、評価)》

社会科：テーマを決め、個人または班で意見や考えを発表させ、他の生徒にその意見に対しての感想を言わせながら授業を展開する。

数学科：ホワイトボードを使ってグループ学習に取り組む。

音楽科：合唱の導入においてパートごとに話し合いを持ち、どのように表現したいか、どんなことを注意すべきかなどについて発表し、それに向けて練習し、演奏発表を行い相互評価していく。

体育科：互いの作品(ダンス)を鑑賞し、アドバイス活動をする。

英語科：見たことや読んだことを何とか描写してみる。聞いた方は、絵に表し情報を交換する。

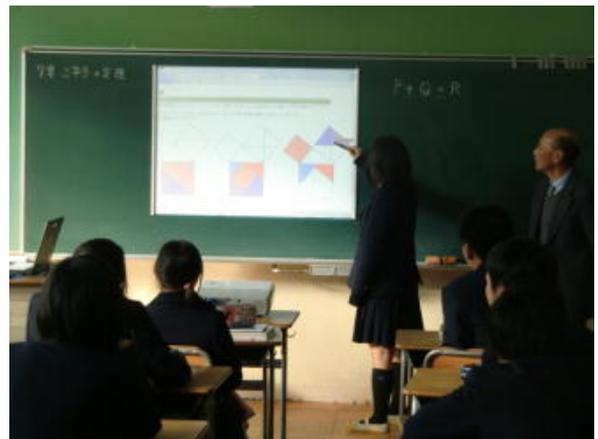
《ICT活用》

数学科：図形の導入のところでICTを取り入れた授業を行う。

関数の分野、相似の分野でデジタル教科書の動画を見せて授業を行う。



数学：図形の導入 研究授業



三平方の定理 電子黒板

理科：ICT機器を用い、画像で提示することにより科学的事象の生活体験値の不足を補ったり、言語からイメージ化、映像から言語化を柔軟に行えるようにする。



理科：実験方法を画像で示す



国語：デジタル教科書 書写

美術科：鑑賞授業の一つとして、デジカメを使い名画をまねて班ごとに写真を撮りスライドショーとして鑑賞する。



美術：名画の画像



名画をまねたデジカメでの画像

体育科：タブレットPC、音声機器やカメラを使用して授業を展開する。



体育：ソフトボールのフォームを
タブレットPCで確認



技術科：技術室でのICTによる作品の検討

技術科：ICTを活用して授業を行う。

5. 研究の経過

4月16日 校内研究推進委員会 研究テーマ、研究の進め方、研究計画の検討

5月30日 研究テーマ、研究の進め方、研究計画、研究グループの決定

6月18日 研究のポイントの決定

8月 6日 文教大学准教授 赤坂雅裕先生による講演、授業案の検討

道徳の教材を用いた授業展開例を提示していただいた。「今、教育現場では、”いじめ”が大きな問題となっている。生徒の素直な声を引き出すために、各活動を重視し、出てきた意見を全体に伝えることで、自分の考えや思いに自信を持てる生徒が育つ。子どもたちは仲間の言葉から素直に道徳的価値を学ぶことができる。教師はこれだと惚れ込ん

だ教材に自信を持ち授業を行うことが大切である。」とご指導いただいた。

10月31日 授業研究Ⅰ 技術・家庭科技術領域 廣野義明教諭による公開授業

実物投影機・班ごとのモニターなど整備された環境で、生徒たちが製作の途中経過を発表した。クラス全体で発表された内容を共有し、作業の進み具合や次の製作手順などを相互に確認できることで、各自の課題をしっかりととらえるという、ICTを使用した効果が見られた。

・県立総合教育センター指導主事松山雅彦先生による講演・ワークショップ

言語活動を充実させるための工夫について様々な示唆を頂いた。言語活動を用いたワークショップでは、ふだんとちがう役割を与えられた中で、多角的な思考の持ち方があることに気づかされた。また、言語活動を行う目的を明確化し、習得したことを活用した次の言語活動を展開することが重要であると改めて感じさせられた。

11月15日 授業研究Ⅱ ・言語活動グループ 英語科 山川絢教諭

道案内という日常生活の中でのコミュニケーション場面を題材とし、英語での言語活動を行いながら、コミュニケーションに必要なアイコンタクト、相槌、ボディランゲージなども用いて積極的に自分を表現しようとする姿勢を引き出していた授業であった。

・発表評価グループ 国語科 安西妙子教諭

心情や情景など和歌から読み取った内容を視覚的に工夫して発表した。評価者は口頭で理由をつけて評価を伝えた。このような相互での様々な意見交流を行うことで、学習内容を意欲的にとらえようとする姿勢が見られた。

・ICT活用グループ数学科 石川淳総括教諭

導入部でICT機器（PCとプロジェクター）を使用し、動画を提示することで生徒が学習内容をエピソード記憶として残すことができるようなICT機器の活用が図られ、生徒の自由な発言が活発に行われていた。

指導・助言 言語活動グループ 佐野正之 横浜国大名誉教授

発表評価グループ 菊池英俊 寒川町教育委員会指導主事

ICT活用グループ一瀬今日子 湘南三浦教育事務所指導主事

・佐野正之 横浜国大名誉教授による講演

生徒にとって意味のある言語活動をどれだけさせられるかが重要であり、ペアやグループで考えを共有したり意見を出し合ったりする「言語活動」を通して、言語学習を行うことが大切であると考えさせられた。今後、**【Think,Pair,Share】**（思考力・判断力・表現力）の言語活動の実践を学習に取り入れていきたい。

ミニ講座実施 4, 5, 6, 7, 10, 1, 2月の職員会議で実施

4月 指導と支援のための話し合い

支援学級の生徒の状況の情報共有

指導・相談部

5月 電子黒板（インタラクティブパネル）の紹介とICTの活用について

6月	指導と支援のための話し合い 積極的な指導・支援の展開	指導・相談部
7月	「学習まとめプリントについて」	大川校長
10月	「全国学力・学習状況調査 生徒質問紙の経年変化について」	尾中教頭
1月	「みんなで行う生徒指導」	尾中教頭
2月	「若手の育成」	尾中教頭

6. ICT機器の導入について

	物品名	数量
パ ナ ソ ニ ッ ク 教 育 ソ ニ ッ ク 団	LEDモバイルプロジェクター	1台
	プロジェクター	2台
	書画カメラ（PC接続型）	6台
	インタラクティブパネル（電子黒板）	1台
	タブレット型PC	4台
	パナソニックビデオカメラ	1台
	プロジェクター用モバイルスクリーン	1枚
新 備品	プロジェクター	3台
	USB接続書画カメラ	3台
研究推進 交	デジタルカメラ	9台
	研究用DVD保存用ハードディスク	1台
	タブレットPC用アプリ購入カード	4枚

7. 研究の成果と今後の課題

(1) 成果（ICTに関して）

- ・生徒がICT機器を活用して情報を整理し発表用資料を作成し、発表できるようになった。
- ・電子黒板やプロジェクターなどのICT機器を利用した授業の中で、教員だけでなく生徒のコミュニケーションツールとしての使用が見られるようになった。ITでなく、ICTへの進歩発展ととらえられる。
- ・電子黒板や書画カメラなどのICT機器が授業で日常的に活用されるようになった。今年度はほとんどの教科で、ICT機器を活用した授業が行われた。
- ・電子黒板やプロジェクターのICT機器が、ミニ講座や会議でも活用されるようになった。
- ・電子黒板、書画カメラなどを新たに購入でき、台数が増えたことで活用しやすくなった。
- ・タブレット型PCを生徒に使用させる授業（体育、社会）が見られるようになった。

(2) 課題（ICTに関して）

- ・ICTの使用が不得手な教員のための研修についてはなかなか進まない状況がある。機器の充実については次第に整いつつあるので、あとは個々の意識を高め多くの教員がICTを使いこなし、生徒にも使わせることでわかりやすいコミュニケーションをおこなえることをめざし研修を継続していきたい。